



いわき市水道事業 事業評価

(平成29年度から令和3年度までの総括的評価)



令和3年度水道週間絵画作品展 最優秀賞作品
タイトル「生活と水」 小名浜東小学校 滝澤応維さん



本日の内容

- I 新・いわき市水道事業経営プラン（H29～R3）の概要
- II 事業評価システムの概要
- III 平成29年度から令和3年度までの総括的評価の報告
 - ・事業運営評価
 - ・業務指標評価
- IV 新・いわき市水道事業経営プランの主な成果





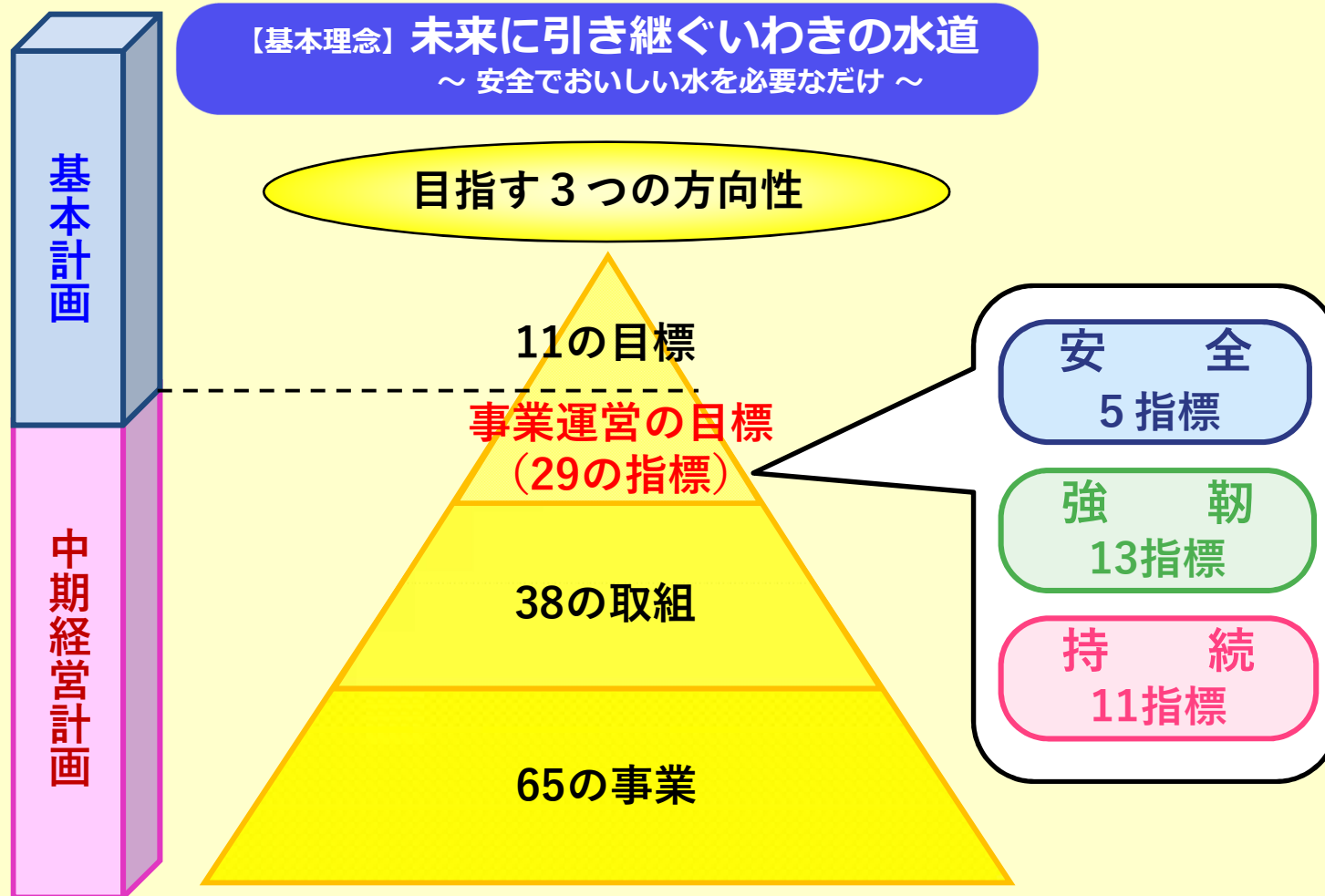
I 新・いわき市水道事業 経営プラン（H29～R3）の概要



新・いわき市水道事業経営プランの体系図

3つの方向性に11の目標を掲げ、目標を実現するための具体的な38の取組と取組のもとで65の事業を展開する。

経 営 プ ラ ン



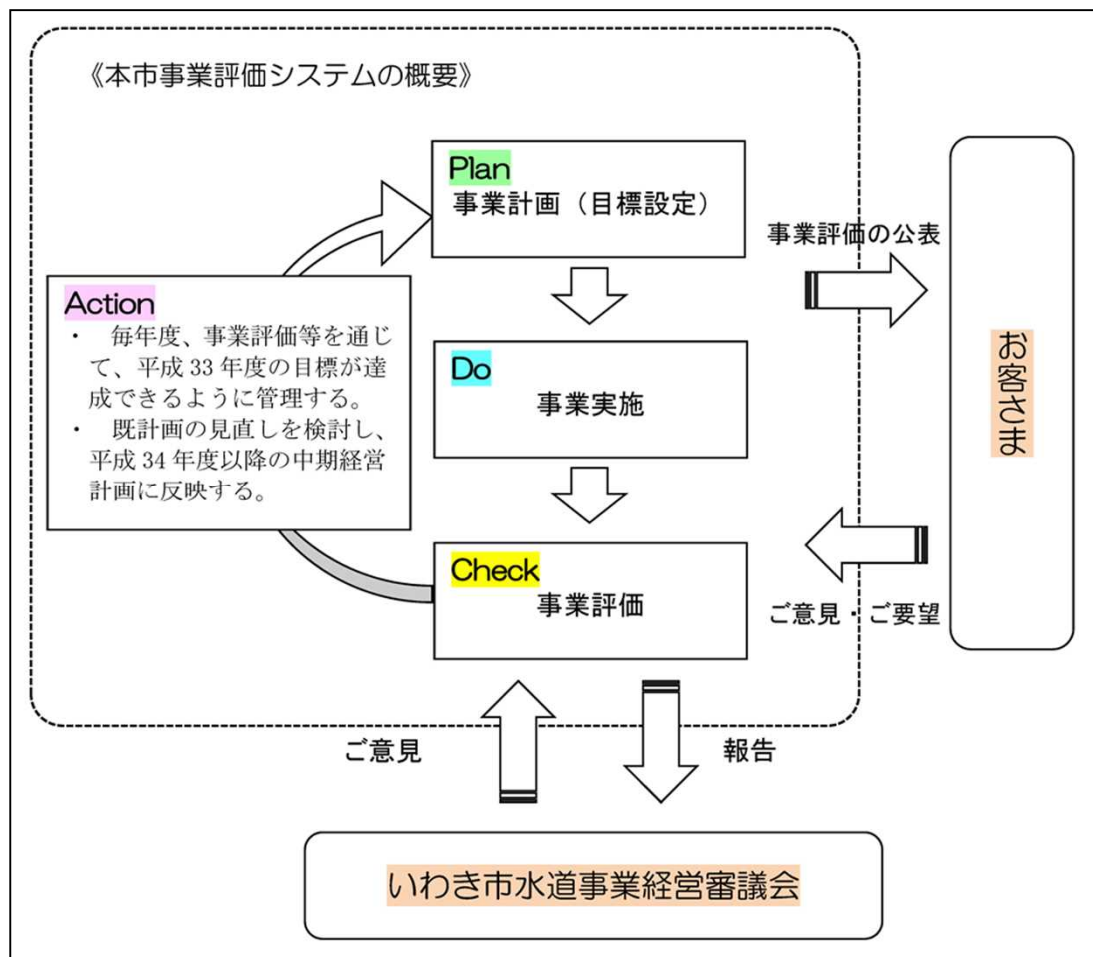


Ⅱ 事業評価システムの概要



1 中期経営計画の事業評価

経営プランの中期経営計画では、計画に定める取組をより効果的に推進するため、事業の進捗状況と効果の点検・評価を行い、改善策等を翌年度以降の計画や予算に反映させることで、**P D C Aサイクル**（「計画（Plan）－ 実施（Do）－ 評価（Check）－ 改善（Action）」のマネジメントサイクル）を確立させることとしています。





2 事業評価の目的

事業評価は、PDCAサイクルの**C（Check）**に位置付けられるものであり、水道局が行ったさまざまな事業について、その進捗状況や事業効果を水道局自らが評価し、公表することにより、3つの項目を目的に実施しています。

① 効率的な事業経営

事業の進捗状況と事業効果の評価を行い、改善策を翌年度以降の計画や予算に反映させることにより、限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を有効に活用します。

② 結果・成果重視の実現

目標を設定して事業を遂行し、事業の進捗状況を水道局自らが評価することで、結果・成果を迫及する意識が生まれ、それらを重視した事業運営を実現します。

また、これにより事業を効率的かつ効果的に実施していく方策を考えることが可能となり、事業の質の向上につながります。

③ アカウンタビリティ（説明責任）の向上

事業の進捗状況や事業効果の評価を公表することにより、経営の透明性を高めます。



3 事業評価の観点

事業評価は、経営プランに掲げる基本理念や方向性の実現に向け、結果・成果に基づく事業の進捗度や効果の視点からの客観的な評価を行うため、次の2つの観点から評価を実施しています。また令和3年度は経営プランの中期経営計画の最終年度にあたることから、今回の事業評価は計画期間全体（平成29年度から令和3年度までの5年間）の評価を行います。

評価の方法	主な特徴
①事業運営評価	● 中期経営計画に定める65の事業の進捗状況について5段階評価を用いて評価する「実施事業評価」を行います。 ● 実施事業評価の評価結果を38の取組ごとに集約し、取組の進捗状況の評価する「取組評価」を行います。 ● 取組評価の評価結果を11の目標ごとに集約するとともに、目標ごとに設定した事業運営の目標の達成状況評価と併せて、目標ごとの総合評価を行う「目標評価」を実施します。
②業務指標評価	● 事業活動の効果について、PI(業務指標)を活用し評価を行います。 ● PIを「安全」、「強靱」、「持続」の3つの方向性に区分し、体系的な視点から評価を行います。 ● 経年比較により「改善度」を確認します。 ● 類似団体との比較により、「乖離値」を確認します。 ● 改善度と乖離値から評価・分析を行います。



経営プラン

目指す**3つの方向性**「安全でおいしい水道水の供給」、「最適で災害に強い施設・体制の整備」、「**持続可能な経営基盤の確立**」ごとに**11の目標**を掲げ、具体的な取組のもと事業を展開

基本計画

目指す方向性

目標
(11の目標)

事業運営の目標(29の指標)

取組
(38の取組)

実施計画
(65の事業)

中期経営計画

事業評価

①事業運営評価

事業の結果・成果を目標ごとの進捗状況と事業運営の目標の達成状況により評価

目標評価

取組評価を目標ごとに集約し、事業運営の目標の達成状況評価と併せて目標ごとの総合評価を実施する。

取組評価

実施事業評価を取組ごとに集約して評価する。

実施事業評価

②業務指標評価

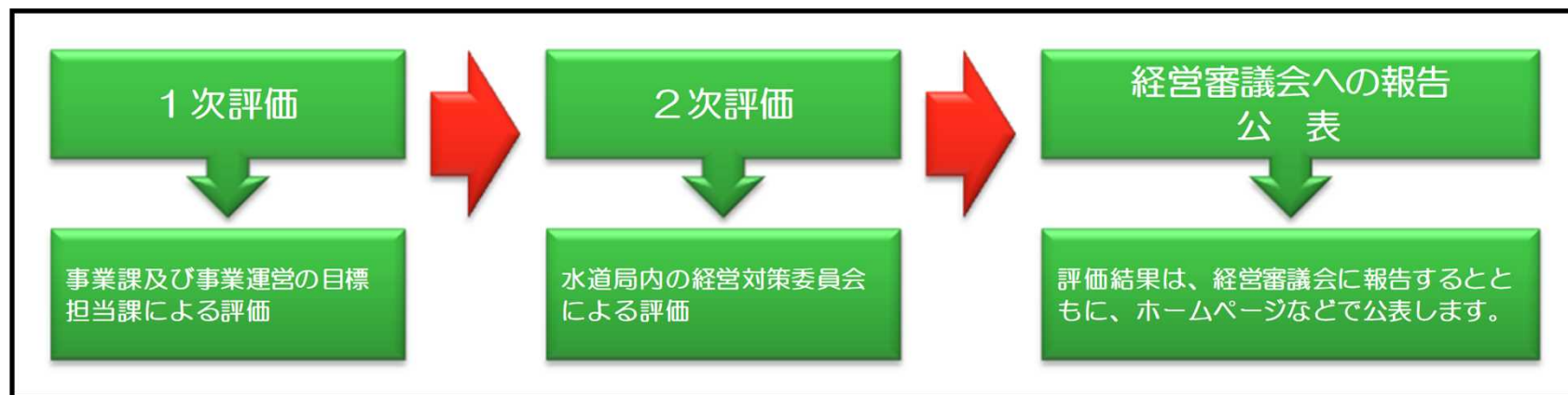
事業活動の効果をPIにより評価・分析



4 事業評価の流れ

事業評価は、事業課などによる 1 次評価と水道局内の経営対策委員会による 2 次評価の 2 段階体制で評価を行っています。

評価結果は経営審議会に報告するとともに、水道局ホームページなどでお客様に公表します。





Ⅲ 平成29年度から令和3年度 までの総括的評価の報告



事業運営評価



1 事業運営評価の評価方法



事業運営評価は、① 実施事業評価 → ② 取組評価 → ③ 目標評価 の順に評価を行います。

① 実施事業評価は、取組のもとで展開する65の事業の進捗状況の評価します。

・実施事業評価の評価基準

実施事業評価は、a～eの5段階で評価します。

順調に進捗している (目標値の100%以上) ⇒ a 評価
おおむね順調に進捗している (目標値の80%～99%) ⇒ b 評価
やや遅れている (目標値の50%～79%) ⇒ c 評価
遅れている (目標値の30%～49%) ⇒ d 評価
ほとんど進捗していない (目標値の30%未満) ⇒ e 評価

② 取組評価は、実施事業評価を38の取組ごとに集約し、取組の進捗状況の評価します。

・取組評価の評価基準 (実施事業評価の集約方法)

実施事業評価の評価結果を点数化 (a～eを5点～1点) し、取組ごとの平均点により、a～eの5段階で評価します。

4.5以上 ⇒ a 評価
3.5～4.4 ⇒ b 評価
2.5～3.4 ⇒ c 評価
1.5～2.4 ⇒ d 評価
1.4以下 ⇒ e 評価

③ 目標評価は、取組評価を11の目標ごとに集約した結果と事業運営の目標の達成状況の評価結果を目標ごとに集約した結果を下のマトリクス表に当てはめ、目標の総合評価としてA～Eの5段階で評価します。

・事業運営の目標の評価基準

事業運営の目標の目標値に対する達成率により、a～eの5段階で評価します。

目標値の100%以上 ⇒ a 評価
目標値の80%～99% ⇒ b 評価
目標値の50%～79% ⇒ c 評価
目標値の30%～49% ⇒ d 評価
目標値の30%未満 ⇒ e 評価

事業運営の目標が複数ある場合は、実施事業評価の集約方法と同様の方法により、各事業運営の目標の評価結果を点数化 (a～eを5点～1点) し、目標ごとの平均点により、a～eの5段階で評価します。

・目標評価の評価基準 (マトリクス表)

評価基準		取組評価の評価結果の集約				
		a	b	c	d	e
事業運営の目標の達成状況の評価	a 100%以上	A	A	B	B	C
	b 80%～99%	A	B	B	C	C
	c 50%～79%	B	B	C	C	D
	d 30%～49%	B	C	C	D	D
	e 30%未満	C	C	D	D	E

・取組評価の集約方法

取組評価の評価結果を点数化 (a～eを5点～1点) し、目標ごとの平均点により、a～eの5段階で評価します。

4.5以上 ⇒ a 評価
3.5～4.4 ⇒ b 評価
2.5～3.4 ⇒ c 評価
1.5～2.4 ⇒ d 評価
1.4以下 ⇒ e 評価

⑩ 目標3.4 効果的な広報活動の実施によるお客さまとのコミュニケーションの推進

総合評価

A

取組34 分かりやすい情報の積極的な提供、取組35 お客さま意見の把握と活用の取組とも「a評価」であり、順調に進捗しています。事業運営の目標については、目標を達成できており「a評価」となりました。目標3.4 効果的な広報活動の実施によるお客さまとのコミュニケーションの推進の総合評価は「A評価」となりました。

各取組の評価と実施事業の評価 → 取組評価の集約 平均5.0 → a

取組34. 分かりやすい情報の積極的な提供・・・取組評価 平均5.0 → a (5)

58. 戦略的な広報の推進・・・a (5)

●いわき市水道事業広報戦略の推進
・いわき市水道事業広報戦略に基づき、情報発信力を強化するため、一般社団法人日本経営協会が開催する広報紙作成研修に参加しました。また、各課所の取組内容の確認などを行うため、局内の広報担当者会議を開催しました。

59. 経営内容のわかりやすい広報・・・a (5)

●わかりやすい広報紙『すいどういわき』の発行
・広報紙を年4回発行しました。発行に当たっては、イベント等で実施したアンケートで要望の多かった内容を掲載するなど、お客さまニーズを的確に捉えた広報紙の作成に努めました。

60. 電子媒体を活用した情報提供の推進・・・a (5)

●ホームページによる積極的な広報
・ホームページは、広報紙に並び一般的な広報手法となっており、即時性や経済性に優れていることから、ホームページのコンテンツを充実させ積極的な広報に努めました。
●SNSを活用した情報発信
・いわき市の公式 SNS (Facebook、Twitter) を活用した情報発信を行いました。

取組35. お客さま意見の把握と活用・・・取組評価 平均5.0 → a (5)

61. お客さま意識調査等の実施・・・a (5)

●水道に関する意識調査等の実施と分析
・水道に関するお客さまの意識や満足度などを把握し、事業運営に反映させるため、無作為抽出した1,000人に水道に関する意識調査を実施しました。また、お客さまニーズを的確に捉え、効果的な広報活動を実施するため、水道週間などのイベントやインターネットを活用したアンケート調査を実施しました。
・意識調査やアンケート調査の結果を分析し、要望の多かった内容を積極的に広報紙に掲載するなど効果的な広報に努めました。

◆事業運営の目標の達成状況評価・・・評価の集約 平均5.0 → a

指標No.	業務指標	指標特性 改善方向	目標値	実績値	達成率	評価
28	PE502 アンケート情報収集割合(人/1,000人) アンケート回答人数/現在給水人口(1,000)	単年 +	2.50人/ 1,000人以上	5.24人/ 1,000人	210%	a(5)

◆今後の対応

効果的な広報活動を実施するためには、情報収集力と情報発信力を強化していくことが重要と考えます。今後も、お客さまニーズを的確に捉え、さまざまな媒体を活用したわかりやすい広報を戦略的に実施するため、いわき市水道事業広報戦略を着実に推進していきます。



2 事業運営評価の評価結果

(1) 事業運営評価総括表

平成29年1月に「新・いわき市水道事業経営プラン」を策定し、「安全でおいしい水の供給」、「最適で災害に強い施設・体制の整備」、「持続可能な経営基盤の確立」の3つの方向性ごとに掲げた11の目標の実現に向け、最重要事業として位置付けした老朽管更新事業をはじめとした各種事業を実施してきました。

計画期間全体（平成29年度から令和3年度まで）の評価については、11の目標のうち10の目標が最高評価である「A評価」となりました。

安全

① 目標1.1 水安全対策の 着実な実施に よる良好な水 質の保持	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a
② 目標1.2 水質検査の 充実による 適正な水質 管理の維持	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a
③ 目標1.3 安心して飲め る水道の普及 促進	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a

強靱

④ 目標2.1 水需要を踏まえ た施設再編によ る施設の最適化、 安定化	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a
⑤ 目標2.2 老朽管更新等 による施設の 健全化	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a
⑥ 目標2.3 危機管理意識の 向上による非常 時対策の強化	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a

持続

⑦ 目標3.1 計画的な人材育成 による専門性の維 持とスキルアップ	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a
⑧ 目標3.2 効率的で効果的な 運営による財務体 質と組織の強化	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a
⑨ 目標3.3 環境負荷低減によ る社会貢献	B	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	b	b
⑩ 目標3.4 効果的な広報活動 の実施によるお客 さまとのコミュニ ケーションの推進	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	a
⑪ 目標3.5 関係者等との連 携・協働の推進に よる水道サービス の向上	A	
	取組評価 の集約	事業運営の目標 の達成状況評価
	a	b



(2) 目標評価・取組評価・実施事業評価・事業運営の目標の達成状況評価

安全 ① 目標1.1 水安全対策の着実な実施による良好な水質の保持

総合評価

A

取組1「水安全計画の推進」、取組3「安心できる水道水の提供」の2つの取組は「a」評価であり、順調に進捗し、取組2「水道水源の保全と監視」は「b」評価であり、概ね順調に進捗しました。事業運営の目標については、目標に掲げた2つの指標とも目標を達成できており、「a」評価となりました。目標1.1「水安全対策の着実な実施による良好な水質の保持」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
1	1	水安全計画の推進	a	5	5.0	a	5	4.7	a
2	2	水道水源の監視強化	a	5	3.7	b	4		
	3	水道水源の水質保全補助事業	a	5					
	4	水道水源保全啓発事業	e	1					
3	5	高度浄水処理方式の調査検討	a	5	5.0	a	5		
	6	追加塩素注入設備の検討	a	5					
	7	連続自動水質監視装置整備事業の検討	a	5					

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均5.0 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R3目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
1	局指標 水質基準不適合率(%) (水質基準不適合回数/全検査回数) × 100	単年 —	0.0% の維持	0.0%	100%	a(5)
2	局指標 河川のBOD 2mg/L以下の維持	単年 —	2mg/L 以下	1.1mg/L	181%	a(5)

◆ 今後の対応

お客さまが安心しておいしく飲める水道水を安定的に供給していくためには、水源から蛇口に至るまでのさまざまなリスクを抽出し、統合的な水質管理を行っていくことが重要であり、そのためには「いわき市水道局水安全計画」の適切な運用と見直しが必要です。

今後も水道水の安全性を一層高め、信頼性の高い水道水を供給するため、水安全計画を着実に運用するとともに、関係法令の改正や技術的な検証などを踏まえ、適切に見直ししていきます。



② 目標1.2 水質検査の充実による適正な水質管理の維持

総合評価

A

取組4「水質検査計画の推進」、取組5「水質管理体制の充実と設備の強化」、取組6「放射性物質のモニタリング」の3つの取組すべてで「a」評価であり、順調に進捗しました。

事業運営の目標については、目標に掲げた2つの指標とも目標を達成できており、「a」評価となりました。

目標1.2「水質検査の充実による適正な水質管理の維持」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
4	8	水質検査計画の策定と推進	a	5	5.0	a	5	5.0	a
5	9	水質検査機器の計画的更新	a	5	5.0	a	5		
6	10	放射性物質モニタリングの実施	a	5	5.0	a	5		

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均5.0 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R3目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
3	局指標 水質検査の自己検査率(%) (実施できる検査項目／検査項目(基準項目＋管理目標設定項目))	単年 ＋	100% の維持	100%	100%	a(5)
4	局指標 水道水の放射性物質検査回数(回)	単年 ＋	週3回	週3回	100%	a(5)

◆ 今後の対応

今日の水道水の安全性と信頼性は、日々の水道水源や浄水処理状況の確認、定期的な水質検査の実施及びそれらの速やかな情報公開によって確保されています。

今後も水道水の安全性と信頼性を高めていくため、定期の水質検査等を着実に実施していくとともに、水質検査の結果を公表していきます。



③ 目標1.3 安心して飲める水道の普及促進

総合評価

A

取組7「給水装置等の適正管理の促進」、取組8「多様な手法による水供給の研究」の2つの取組とも「a」評価であり、順調に進捗しました。

事業運営の目標については、目標に掲げた指標について目標を達成できており「a」評価となりました。

目標1.3「安心して飲める水道の普及促進」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名	総括的評価		取組評価			目標評価	
				平均	評価	数値	平均	評価
7	11	貯水槽水道の適正管理啓発活動、無料点検の実施		a	5	5.0	a	5
	12	直結給水・直結増圧給水の推進		a	5			
	13	鉛製給水管の布設替と注意広報の実施		a	5			
8	14	多様な手法による水供給の研究		a	5	5.0	a	5

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均5.0 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
5	PI(A205) 貯水槽水道指導率(%) (貯水槽水道指導件数/貯水槽水道数) × 100	単年 +	100% の維持	100%	100%	a(5)

◆ 今後の対応

給水装置については、所有者、設置者又は管理者の責任において管理することが原則となりますが、管理状況によっては健康への影響も懸念されることから、安全な給水方式への切替えや安全な材質への布設替えのほか、管理水準を向上させることが重要です。

今後も継続して、貯水槽水道の適正管理の啓発活動や直結給水方式への切替え、鉛製給水管の解消を実施し、安心して飲める水道を普及促進していきます。



強靱④ 目標2.1 水需要を踏まえた施設再編による施設の最適化、安定化

本編 P21～22



総合評価

A

取組 9「水道施設再構築構想の推進」、取組10「水道施設の効率運用の検討と管理」、取組11「基幹浄水場連絡管の整備」、取組12「浄水・配水施設の整備」、取組13「水道施設の統廃合の実施」の5つの取組すべてで「a」評価であり、順調に進捗しました。事業運営の目標については、目標に掲げた2つの指標のうち、「基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率（鹿島・常磐水系幹線）」が「b」評価となりましたが、事業運営の目標全体としては「a」評価となりました。

目標2.1「水需要を踏まえた施設再編による施設の最適化、安定化」の総合評価は、「A 評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
9	15	水道施設再構築構想の推進	a	5	5.0	a	5	5.0	a
10	16	水道施設の効率的な運用	a	5	5.0	a	5		
11	17	基幹浄水場連絡管整備事業	a	5	5.0	a	5		
12	18	浄水施設整備事業	a	5	4.5	a	5		
	19	配水施設整備事業	b	4					
13	20	水道施設撤去等事業	a	5	5.0	a	5		

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均4.5 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
6	局指標 基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率(%) 平・鹿島水系幹線(若葉台～中央台ポンプ場)	累積 +	100%	100%	100%	a(5)
7	局指標 基幹浄水場連絡管整備事業の進捗率(%) 鹿島・常磐水系幹線(鹿島街道～国道6号常磐交番前交差点)	累積 +	38.5%	30.8%	80%	b(4)

◆ 今後の対応

将来の人口減に伴う水需要の減少やこれまで整備した多くの水道施設が更新時期を迎えることによる更新需要の増大等の将来の水道事業を取り巻く環境に適切に対応するため、既存計画を全体的に見直した「水道施設総合整備計画」を令和4年1月に策定しましたが、今後は策定した同計画の進捗管理と検証を行いながら、目指すべき将来像の実現に向けて着実に事業を進めていきます。

⑤ 目標2.2 老朽管更新等による施設の健全化

総合評価

A

取組14「水道施設耐震化計画の推進」、取組15「水道施設状況の適正把握」、取組16「管路の更新及び重要管路の耐震化」、取組18「浄水・配水施設の更新」の4つの取組は「a」評価であり、順調に進捗し、取組17「浄水・配水施設の耐震化」は「b」評価であり、概ね順調に進捗しました。事業運営の目標については、目標に掲げた10の指標のうち、「浄水施設の耐震化率」が「d」評価、「実使用年数超過管路率」が「b」評価となりましたが、そのほかの8つの指標は「a」評価となったことで、事業運営の目標全体としては「a」評価となりました。

目標2.2「老朽管更新等による施設の健全化」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
14	21	水道施設更新計画及び耐震化計画の推進	a	5	5.0	a	5	4.8	a
15	22	水道施設台帳整備事業	a	5	5.0	a	5		
	23	漏水防止対策事業	a	5					
16	24	老朽管更新事業	a	5	5.0	a	5		
	25	重要給水施設配水管整備事業	a	5					
17	26	浄水施設耐震化事業	d	2	3.5	b	4		
	27	配水施設耐震化事業	a	5					
18	28	浄水施設更新事業	a	5	4.5	a	5		
	29	配水施設更新事業	b	4					



写真 老朽管更新の様子



写真 耐震管布設の様子



◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均4.6 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の達成率	総括的評価
8	PI(B602) 浄水施設の耐震化率(%)	累積 +	47.6%	23.4%	49%	d (2)
9	PI(B605) 管路の耐震管率(%)	累積 +	12.1%	13.9%	115%	a(5)
10	PI(B606) 基幹管路の耐震管率(%)	累積 +	44.3%	44.4%	100%	a(5)
11	PI(B606-2) 基幹管路の耐震適合率(%)	累積 +	51.2%	52.3%	102%	a(5)
12	PI(B607) 重要給水施設配水管路の耐震管率(%)	累積 +	40.1%	54.9%	137%	a(5)
13	PI(B504) 管路の更新率(%)	単年 +	1.16%	1.21%	122%	a(5)
14	PI(B503) 法定耐用年数超過管路率(%)	累積 -	28.2%	27.2%	104%	a(5)
15	局指標 実使用年数超過管路率(%)	累積 -	13.3%	13.7%	97%	b(4)
16	PI(B112) 有収率(%)	単年 +	89.3%	90.2%	100%	a(5)
17	PI(B110) 漏水率(%)	単年 -	8.5%	6.9%	106%	a(5)

◆ 今後の対応

水道施設の多くを占める管路の老朽化が進み、今後多くの管路が更新時期を迎えることから、老朽管更新事業を最重要事業に位置付け、その目標を管路総延長(約2,200km)の1.16%である年間26kmと定めて更新事業に取り組んだ結果、5年間の平均で約32kmの更新を行い、すべての年度で目標を達成しました。今後は、「水道施設総合整備計画」に基づき、老朽管更新事業をはじめとした施設の強靱化に関する事業を着実に進めていきます。



⑥ 目標2.3 危機管理意識の向上による非常時対策の強化

総合評価

A

取組19「水道事業継続計画の推進」、取組20「水道危機管理マニュアルの充実と訓練」、取組21「水道施設の安全対策の強化」、取組22「応急資器材・体制等の整備」の4つの取組すべて「a」評価であり、順調に進捗しています。事業運営の目標については、目標に掲げた指標について目標を達成できており「a」評価となりました。

目標2.3「危機管理意識の向上による非常時対策の強化」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
19	30	水道事業継続計画(BCP)の推進	a	5	5.0	a	5	5.0	a
20	31	水道危機管理マニュアルの推進	a	5	5.0	a	5		
	32	危機管理マニュアル等に基づく各種訓練の実施	a	5					
	33	応急給水計画の推進	a	5					
21	34	水道施設安全対策事業	a	5	5.0	a	5		
	35	浄水場非常用発電設備整備事業	a	5					
	36	緊急遮断弁整備事業	a	5					
22	37	災害時通信手段の確保	a	5	5.0	a	5		
	38	応急資器材の備蓄と適正管理	a	5					

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均5.0 → a

指標No	業務指標	指標特性 改善方向	R3目標値	R3実績値	全体の 達成率	総括的 評価
18	PI(B210) 災害対策訓練実施回数(回/年) 年間の災害対策訓練実施回数	単年 +	2回/年	2回/年	140%	a(5)

◆ 今後の対応

水道局では、お客さまの生命や財産を保護することを目的にさまざまな危機的事態を想定した危機管理関連対策マニュアルを策定するとともに、職員の判断力の養成、災害対応能力及び防災意識の向上を図るため、同マニュアルに基づく災害対策訓練を実施してきました。

今後も継続して災害対策訓練を実施し、令和元年東日本台風等の被災経験を踏まえながら、必要に応じて危機管理関連対策マニュアルを見直していきます。



持続 ⑦ 目標3.1 計画的な人材育成による専門性の維持とスキルアップ

総合評価

A

取組23「専門性に富む人材の育成と配置」、取組24「水道電算処理システムの改善」の2つの取組とも「a」評価であり、順調に進捗しています。

事業運営の目標については、目標に掲げた2つの指標のうち、「内部研修時間」が「b」評価となりましたが、事業運営の目標全体としては「a」評価となりました。

目標3.1「計画的な人材育成による専門性の維持とスキルアップ」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
23	39	人材育成の充実	a	5	5.0	a	5	5.0	a
24	40	上下水道料金処理システムの改善	a	5	5.0	a	5		
	41	財務会計システムの改善	a	5					
	42	「市地域情報化推進計画」の推進	a	5					

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均4.5 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
19	PI(C202) 外部研修時間(時間/人) (職員が外部研修を受けた時間×受講人数)/全職員数	単年 +	5.5時間/人	10.1時間/人	125%	a(5)
20	PI(C203) 内部研修時間(時間/人) (職員が内部研修を受けた時間×受講人数)/全職員数	単年 +	6.5時間/人	8.4時間/人	99%	b(4)

◆ 今後の対応

水道局では、毎年度各種講習会への職員の派遣や局内研修を実施し、職員の能力向上や技術力の習得に取り組んでいます。しかし、高度化する水道技術の課題を的確に捉え、対処していくとともに、水道サービスの水準を維持し、向上させていくためには、これまで以上に専門的な知識と経験を持つ職員の育成と人材の確保に努め、組織力を強化していくことが重要となります。

今後は、「いわき市水道局人材育成基本方針」に基づいた人材育成の取組を推進するとともに、すべての職員がより能力を発揮できる職場環境への改善に努めていきます。

⑧ 目標3.2 効率的で効果的な運営による財務体質と組織の強化

総合評価

A

取組25「企業債適正管理計画の推進」、取組26「アセットマネジメント活用による投資と財源の適正管理」、取組27「適正な水道料金制度の維持・検証」、取組28「財務体質の強化」、取組29「組織・業務の改善・改革」の5つの取組すべてで「a」評価であり、順調に進捗しています。
事業運営の目標については、目標に掲げた4つの指標すべてで目標を達成できており「a」評価となりました。目標3.2「効率的で効果的な運営による財務体質と組織の強化」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
25	43	企業債発行の適正化	a	5	5.0	a	5	5.0	a
26	44	アセットマネジメントの活用推進	a	5	5.0	a	5		
27	45	需要実態に即した水道料金制度の検討	a	5	5.0	a	5		
28	46	遊休資産の有効活用の推進	b	4	4.7	a	5		
	47	他水道事業者からの水質検査受託の継続	a	5					
	48	財政支援等の要望と新たな財源確保の推進	a	5					
29	49	入札制度の適正化	a	5	5.0	a	5		
	50	定数、組織、制度の検討、実施	a	5					
	51	業務改善の推進	a	5					
	52	職員提案の事業運営への反映	a	5					
	53	中期経営計画の進行管理と評価	a	5					

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均5.0 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
21	PI(C102) 経常収支比率(%) [(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)] × 100	単年 +	111.9%	115.5%	104%	a(5)
22	PI(C119) 自己資本構成比率(%) [(資本金+剰余金+評価差額など+繰延収益)/負債・資本合計] × 100	累積 +	64.7%	72.2%	112%	a(5)
23	PI(C112) 給水収益に対する企業債残高の割合(%) (企業債残高/給水収益) × 100	累積 -	330.8%	306.6%	108%	a(5)
24	局指標 職員提案制度による提案件数(件)	単年 +	10件/年	16件/年	160%	a(5)

◆ 今後の対応

効率的で効果的な事業運営にあたっては、アセットマネジメント（資産管理）の手法等を活用し、長期的な視点に立った事業運営が必要不可欠であることから、今後は「水道施設総合整備計画（アセットマネジメント）」の検証を行っていきます。

また、新たに策定した「いわき水みらいビジョン2031」については毎年度、事業評価を実施し、実施事業の達成状況等を評価しながら、場合によっては計画に定められた目標の達成に向けた見直し（ローリング）を行いながら、進行管理を行っていきます。



⑨ 目標3.3 環境負荷低減による社会貢献

総合評価

B

取組30「市循環型オフィスづくり行動計画の推進」、取組31「環境対策の推進」、取組32「浄水発生土の適正管理と有効利用」の3つの取組は「a」評価であり、順調に進捗し、取組33「環境教育の推進による貢献」は「d」評価となりました。

事業運営の目標については、目標に掲げた3つの指標のうち、「エコカーの導入台数」が「a」評価であり、「水道施設見学者割合」が「d」評価、「配水量1m³当たり電力消費量」が「b」評価となり、事業運営の目標全体としては、「b」評価となりました。目標3.3「環境負荷低減による社会貢献」の総合評価は、「B評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名	総括的评价		取組評価			目標評価	
		評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
30	54 「市循環型オフィスづくり行動計画」の推進	a	5	5.0	a	5	4.3	b
31	55 再生可能エネルギー等環境対策の推進	a	5	5.0	a	5		
32	56 浄水発生土の適正管理と有効利用の検討	a	5	5.0	a	5		
33	57 環境教育の推進	d	2	2.0	d	2		

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均3.7 → b

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
25	PI(C403) 水道施設見学者割合(人/1,000人) 見学者数／(現在給水人口／1,000)	単年 +	9.2人 /1,000人	0人 /1,000人	48%	d(2)
26	PI(B301) 配水量1m ³ 当たり電力消費量(kwh/m ³) 電力使用量の合計／年間配水量	単年 -	0.45 kwh/m ³	0.46 kwh/m ³	99%	b(4)
27	局指標 エコカーの導入台数(台)	累積 +	1台 (5台)	1台 (5台)	100%	a(5)

◆ 今後の対応

循環資源である水を利用する水道事業は、浄水や送配水の過程で多くの電力や燃料、薬品を使用するほか、管路の製造、構造物の建設の過程においても多くの資源やエネルギーを使用しており、そのため、一事業者として、環境保全や環境負荷低減の取組を率先して行うことが求められることから、今後も継続して、水道工事における建設副産物の発生抑制とリサイクルの促進や「市循環型オフィスづくり行動計画」に基づく公用車の低公害・低燃費車への買い替えなどの環境対策に取り組んでいきます。

なお、目標を達成できなかった「水道施設見学者割合」については、令和3年度末時点においても新型コロナウイルスの収束が見込めず、再開できない状況であります。良好な水道水源等の水環境を次世代に引き継ぐため、浄水場見学などを通じ、環境保全について多くの市民の方に理解を深めてもらう必要があることから、現時点で実施可能な取組を行うとともに、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた見学者の増加につながる効果的な方策について検討していきます。



⑩ 目標3.4 効果的な広報活動の実施によるお客さまとのコミュニケーションの推進

総合評価

A

取組34「分かりやすい情報の積極的な提供」、取組35「お客さま意見の把握と活用」の2つの取組とも「a」評価であり、順調に進捗しています。

事業運営の目標については、目標に掲げた指標について目標を達成できており「a」評価となりました。

目標3.4「効果的な広報活動の実施によるお客さまとのコミュニケーションの推進」の総合評価は「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
34	58	戦略的な広報の推進	a	5	5.0	a	5	5.0	a
	59	経営内容のわかりやすい広報	a	5					
	60	電子媒体を活用した情報提供の推進	a	5					
35	61	お客さま意識調査等の実施	a	5	5.0	a	5		

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均5.0 → a

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
28	PI(C502) アンケート情報収集割合(人/1,000人) アンケート回答人数/(現在給水人口/1,000)	単年 +	2.50人 /1,000人	3.81人 /1,000人	132%	a(5)

◆ 今後の対応

効果的な広報活動を実践するため、情報収集力と情報発信力を強化していくことが重要であります。

今後もお客さまの意見やニーズを的確に捉え、事業運営に反映させるため、さまざまな媒体を活用した分かりやすい広報を実現するため、「いわき市水道事業広報戦略」を着実に推進していきます。



⑪ 目標3.5 関係者等との連携・協働の推進による水道サービスの向上

総合評価

A

取組37「給水サービスの充実」、取組38「手続サービスの充実」の2つの取組は「a」評価であり、順調に進捗し、取組36「水が潤うまちづくりの推進」は「b」評価であり、概ね順調に進捗しました。

事業運営の目標については、目標に掲げた指標の「行事開催（参加）回数」が「b」評価となりました。

目標3.5「関係者等との連携・協働の推進による水道サービスの向上」の総合評価は、「A評価」となりました。

◆ 目標評価・取組評価・実施事業評価

取組	事業名		総括的評価		取組評価			目標評価	
			評価	数値	平均	評価	数値	平均	評価
36	62	水に親しむまちづくりの推進	b	4	4.0	b	4	4.7	a
37	63	修繕体制の充実	a	5	5.0	a	5		
	64	給水装置工事事業者等との連携	a	5					
38	65	お客さま手続サービスの利便性向上	a	5	5.0	a	5		

◆ 事業運営の目標の達成状況 評価の集約 平均4.0 → b

指標No	業 務 指 標	指標特性 改善方向	R 3 目標値	R 3 実績値	全体の 達成率	総括的 評価
29	局指標 行事開催(参加)回数(回)	単年 +	6回/年	5回/年	93%	b(4)

◆ 今後の対応

水道サービスの向上においては、お客さまの意見やニーズを的確に捉えることが重要であり、そのためにはお客様と直接ふれあうことのできるイベントの開催や行事への参加を積極的に行い、お客さまの意見等を把握する機会を増やす必要がありますが、令和3年度末時点においても新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況であることから、今後はウィズコロナ、アフターコロナを見据えた方策について検討していきます。



3 総括的評価結果の 「水みらいビジョン2031」への反映



総括的評価結果の「水みらいビジョン2031」への反映

令和2年度 事前総括的評価

目標	目標の総合評価		
	目標評価	事業運営 目標の評価	総合評価
1.1	a	a	A
1.2	a	a	A
1.3	a	a	A
2.1	a	b	A
2.2	a	a	A
2.3	a	a	A
3.1	a	a	A
3.2	a	a	A
3.3	a	b	A
3.4	a	a	A
3.5	a	a	A

実際の
評価

令和3年度 総括的評価

目標	目標の総合評価		
	目標評価	事業運営 目標の評価	総合評価
1.1	a	a	A
1.2	a	a	A
1.3	a	a	A
2.1	a	b	A
2.2	a	a	A
2.3	a	a	A
3.1	a	a	A
3.2	a	a	A
3.3	b	b	B
3.4	a	a	A
3.5	a	a	A

※評価結果を新ビジョンの施策や実施事業に反映

目標3.3の総合評価が「B評価」の理由

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により浄水場見学の受け入れを中止したため、目標評価が「b」となり、総合評価が「B評価」となりましたが、
今後は「水みらいビジョン2031」のもと、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた見学者の増加につながる効果的な方策について検討し、実施していきます。



業務指標評価



1 業務指標評価の評価方法

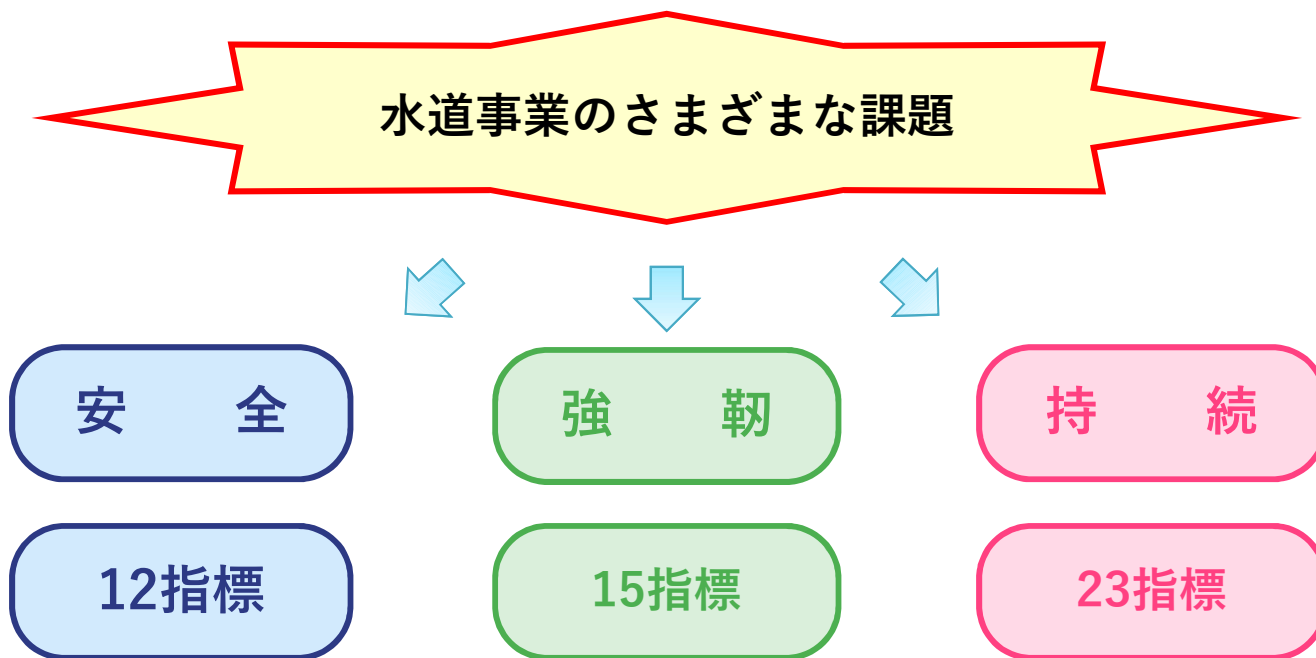
業務指標評価は、水道事業ガイドラインに基づく業務指標（以下、「PI」。）を活用し、経営プランに基づく事業活動の効果を評価するものであり、公益財団法人水道技術研究センターの「**水道事業ガイドライン（PI）を活用した現状分析診断システム**」を活用し「**改善度**」と「**乖離値**」から評価・分析を行っています。

評価の方法	主 な 特 徴
改善度	● PI値が前年度のPI値からどの程度変化したのかによって改善度を評価します。 ※今回は総括的評価となるため、P I 値が中期経営計画初年度（H28）からどの程度変化したかを評価します。
乖離値	● PI値が類似団体の平均値とどの程度離れているかを確認し、乖離値を評価します。 ※総括的評価においては、計画期間の最終年度（R3）の値を使用して評価します。



2 業務指標評価の対象となるPI

評価の対象となるPIは、水道事業のさまざまな課題を経営プランに掲げた「安全」「強靱」「持続」の3つの方向性ごとに分類し、その課題をはかりとることのできる指標として、全119の指標の中から50指標を設定しています。





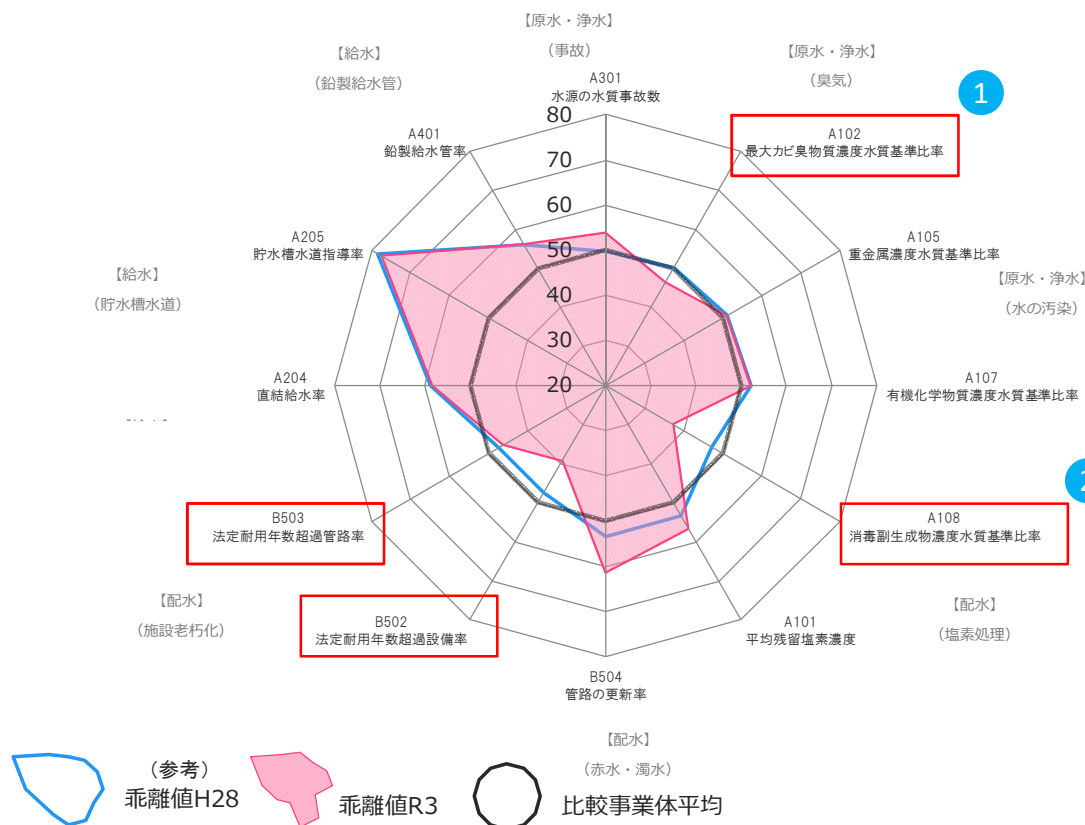
3 業務指標評価の評価結果



安全

評価結果

分析結果と対策



① 雨や気温の上昇により、夏季にカビ臭の原因であるジェオスミンが上昇したことによるもの

⇒「**いわき市水道局水安全計画**」において作成した対応マニュアルなどを活用し、徹底したリスク管理を行っていきます。

② 原水中の有機物を塩素処理することにより発生する消毒副生成物(トリクロロ酢酸)が、夏季の暑さなどの影響により上昇したことによるもの

⇒原水の監視体制を強化し及び**追加塩素注入設備**により浄水場から末端給水までの残留塩素濃度の均等化、低減化を図るとともに、粉末活性炭注入などの対策を講じていきます。

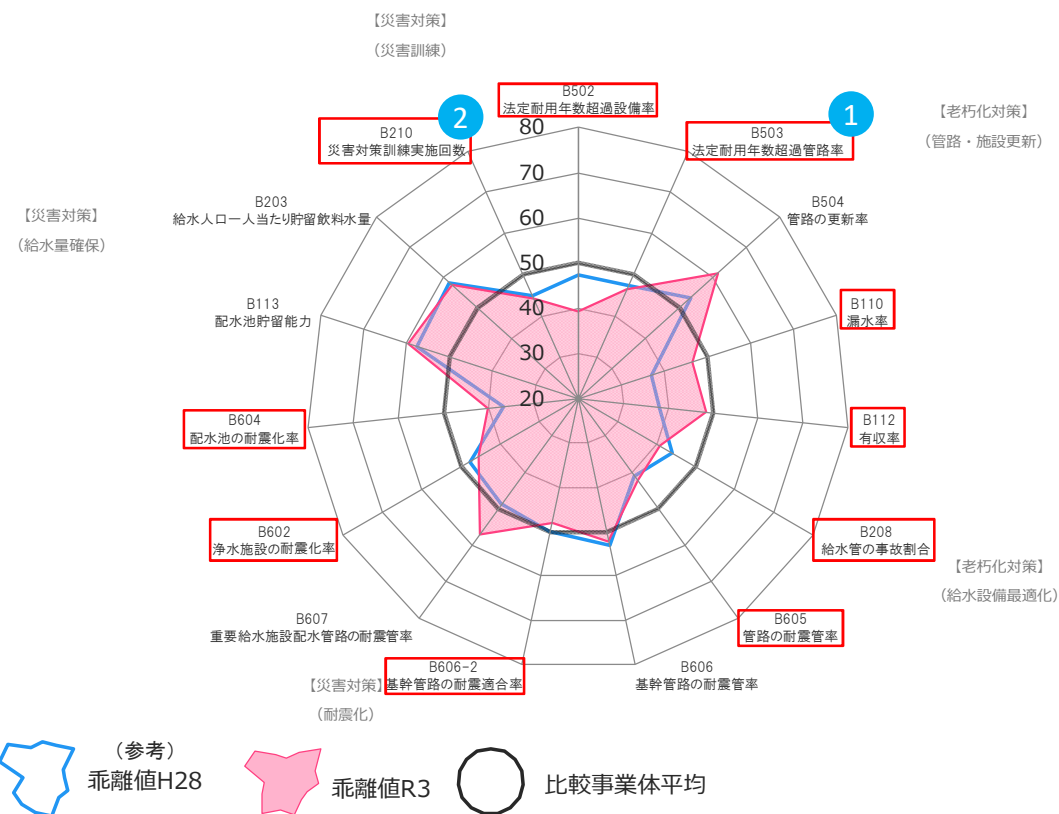
※ 類似団体の平均値よりも本市の値が低い業務指標を赤枠で示している。



強 靱

評価結果

分析結果と対策



① 法定耐用年数が会計上の減価償却費を算出するための年数であり、近年の品質の向上等により、実際に使用可能な年数と乖離している例が少なくないため、これまでの使用実績等から実際に使用できる年数(実使用年数)を本市独自で定め、更新を進めたことによるもの

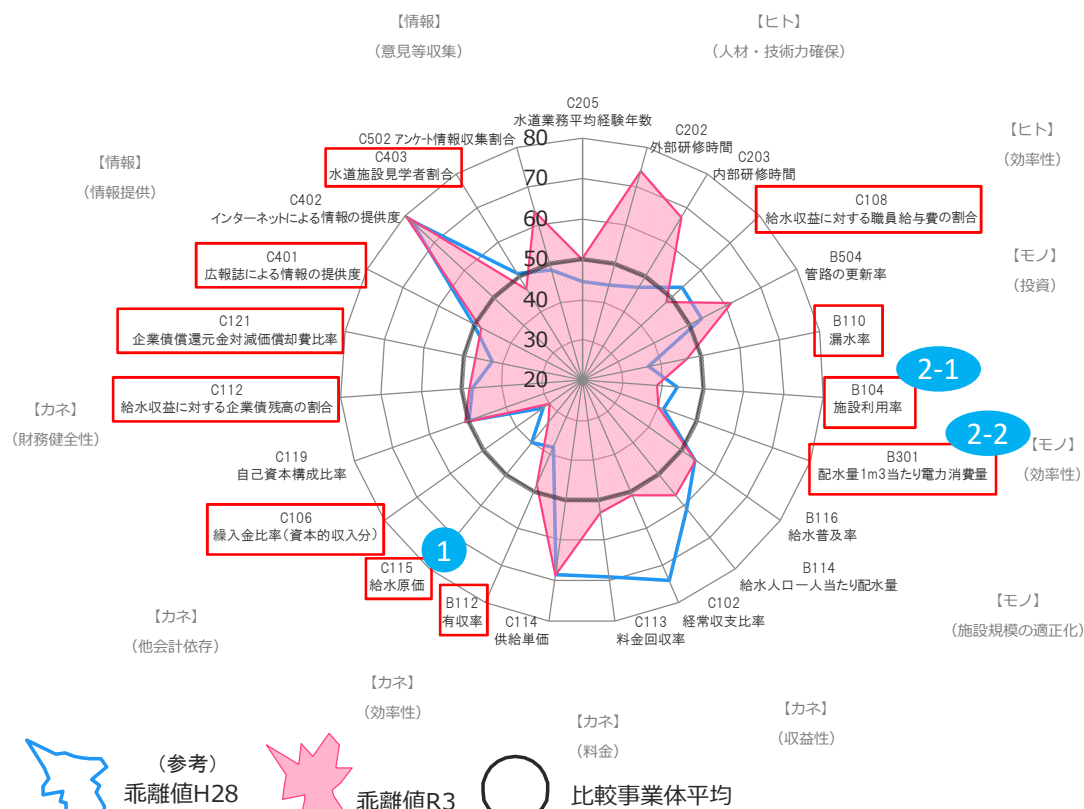
⇒「水道施設総合整備計画」において新たに設定した「標準使用年数」や「延長使用年数」に基づき、適切な維持管理による長寿命化を図りながら、施設の老朽度や重要度を踏まえ、効率的に実施していきます。

② 新型コロナウイルス感染症の影響により、訓練が中止になったことによるもの
⇒コロナ禍の令和2年度以降においてもマニュアル配布による訓練に変更するなど、可能な限り実施しており、今後も継続して応急給水訓練、応急復旧訓練及び情報収集伝達訓練等に取り組んでいきます。

※ 類似団体の平均値よりも本市の値が低い業務指標を赤枠で示している。

持續

評価結果



① 経常費用が年々増加していることや有収水量が年々減少していることによるもの
⇒類似団体等との費用構成などの比較・分析を行い、費用削減策について検討を行う必要があります。

②-① 一日平均配水量が減少したことによるもの

②ー② 本市の広域で起伏に富む地勢などの特殊性から、類似団体に比べて効率的な給水が難しいことによるもの
⇒施設能力の適正化が重要となることから、「水道施設総合整備計画」に基づき、災害等の非常時における必要なバックアップ能力を確保しつつ、施設の統廃合やダウンサイジングにより、施設能力の適正化と効率的な水運用に取り組んでいきます。

※ 類似団体の平均値よりも本市の値が低い業務指標を赤枠で示している。



Ⅳ 新・いわき市水道事業 経営プランの主な成果 (平成29年度～令和3年度)



安全 ～安全でおいしい水道水の供給

目標 1. 1 水安全対策の着実な実施による良好な水質の保持

No.3 水道水源の水質保全補助事業（浄水課）

○水道水源水質保全促進事業補助金の交付

水道水源保護地域内の住宅からの生活排水による河川汚濁を防止するため、合併処理浄化槽への切り替えや農業集落排水への加入に対する**補助金**を交付しました。 ※交付件数：**308件**/5年

表 水道水源水質保全促進事業交付件数 (件)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	計
合併処理浄化槽 への切替補助	19 (2,386千円)	49 (6,190千円)	33 (4,234千円)	57 (6,957千円)	65 (8,326千円)	223 (28,093千円)
農業集落排水 への切替補助	26 (3,588千円)	22 (3,036千円)	10 (1,380千円)	17 (2,346千円)	10 (1,380千円)	85 (11,730千円)
計	45 (5,974千円)	71 (9,226千円)	43 (5,614千円)	74 (9,303千円)	75 (9,706千円)	308 (39,823千円)

※ () は補助金の交付額



安全 ～安全でおいしい水道水の供給

目標 1. 1 水安全対策の着実な実施による良好な水質の保持

No.6 追加塩素注入設備整備の検討（配水課）

○平浄水場系の残留塩素濃度の均等化、低減化による良質な水道水の供給

平成29年9月から、平配水池外7施設の『追加塩素注入設備』を運用し、平浄水場の給水区域における残留塩素濃度の均等化、低減化を図りました。

※平浄水場の残留塩素濃度：運用前0.72mg/L ⇒ 運用後**0.57mg/L** (-0.15mg/L)

※追加塩素注入設備整備施設（**8施設**）：平配水池、四倉ポンプ場、久之浜配水池、薬王寺ポンプ場、好間配水池、小川配水池、福岡ポンプ場、平窪第2ポンプ場



写真 残留塩素濃度調査の様子



写真 追加塩素注入設備 平第2配水池



安全 ～安全でおいしい水道水の供給

目標 1. 2 水質検査の充実による適正な水質管理の維持

No. 8 水質検査計画の策定と推進（浄水課）

○水質検査計画の策定と計画に基づく水質検査の実施

毎年度『**水質検査計画**』を策定し、計画に基づき水質検査を実施しました。

なお、いわき市水道水源保護条例に基づく立入検査、各地区保健委員に河川監視業務を委託するなど、良質な原水の確保に努め、また各浄水場においては水質、水量及び水压等を常時監視し、原水水質の変化に対応した運転管理を行った結果、全ての年度において水質基準不適合率『**0 %**』を達成しました。

表 水質基準不適合率

年 度	H29	H30	R元	R2	R3
水質基準 不適合回数（回）	0	0	0	0	0
検査回数（回）	377	377	378	377	377
水質基準 不適合率（%）	0	0	0	0	0

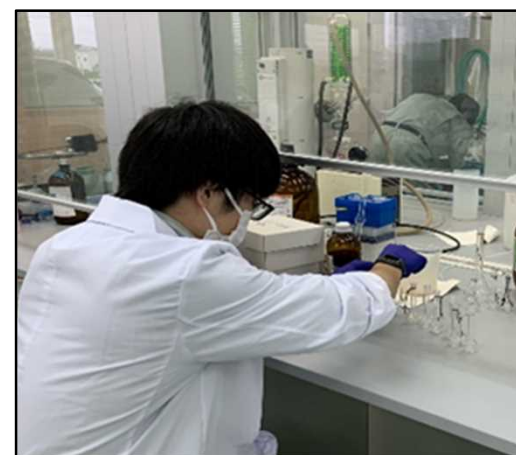


写真 水質検査の様子



安全 ～安全でおいしい水道水の供給

目標 1. 3 安心して飲める水道の普及促進

No.12 直結給水・直結増圧給水の推進（営業課）

○直結給水方式の推進

直結給水方式対象区域内のマンション等における貯水槽水道から3、4階直結給水、直結増圧給水への切り替えについて、貯水槽水道の水質問題の解消等のメリットを含め、ホームページ等により周知した結果、計画期間内に**68件**の切り替えを行いました。※事前協議件数 **92件**/5年、切替件数 **68件**/5年

No.13 鉛製給水管の布設替と注意広報の実施（営業課）

○鉛製給水管の解消

鉛製給水管の注意事項をホームページ等により周知しながら、『**鉛給水管調査 解消業務委託（単独解消事業）**』や老朽管更新事業等により**鉛製給水管の解消**を行いました。

※鉛製給水管解消件数 **1,030件**/5年

※令和3年度末鉛製給水管件数 **1,729件**（給水件数の**約1.2%**）



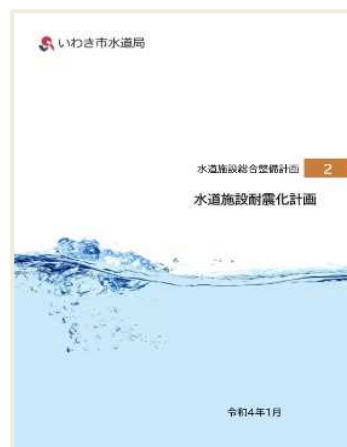
強靱 ～最適で災害に強い施設・体制の整備

目標 2. 1 水需要を踏まえた施設再編による施設の最適化、安定化

No.15 水道施設再構築構想の推進（経営戦略課、配水課、浄水課）

○『水道施設総合整備計画』の策定

将来の人口減少等に伴う水需要の減少や更新需要の増大に加え、自然災害への対応など水道事業を取り巻く事業環境が大きく変化していることから、既存計画の『水道システム再構築計画』等の検証を行いながら、令和4年1月に『**水道施設総合整備計画**』を策定しました。



※水道施設総合整備計画は、「水道施設再構築構想」、「水道施設耐震化計画」、「水道施設津波・浸水対策計画」、「水道施設土砂災害対策計画」、「水道施設停電対策計画」、「水道施設整備計画」、「管路整備計画」、「水道施設長寿命化計画」、「アセットマネジメント」の9つの計画から構成される。



強靱 ～最適で災害に強い施設・体制の整備

目標 2. 1 水需要を踏まえた施設再編による施設の最適化、安定化

No.17 基幹浄水場連絡管整備事業（配水課）

○『平・鹿島水系幹線』の完成

平成15年度から整備が始まった平・鹿島水系幹線については、**令和2年度**に完了し、東日本大震災以前には行えなかった**平浄水場から中央台や小名浜地区へのバックアップが可能となり**、非常時における給水の安定性が向上しました。

※整備概要：平ポンプ場（平配水池）から中央台ポンプ場までの管路の整備

φ800 L≒8.7km、φ600 L≒1.2km、φ500 L≒1.1km、総延長ΣL≒**11km**

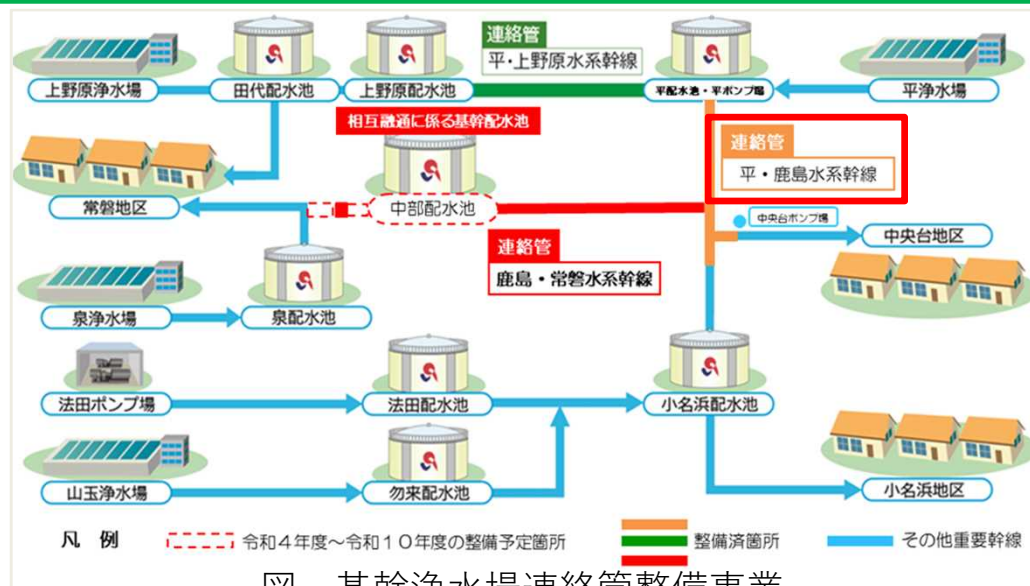


図 基幹浄水場連絡管整備事業



写真 φ800布設状況



強靱 ～最適で災害に強い施設・体制の整備

目標 2. 2 老朽管更新等による施設の健全化

No.24 老朽管更新事業（配水課、工務課、南部工事事務所）

○配水管改良工事の実施

水道施設の多くを占める管路の老朽化対策を推進するため、経理上の法定耐用年数（40年）ではなく、実際に使用できる年数の『**実使用年数（本市独自基準）**』を定め、将来の更新需要を算定し、年間の目標更新延長を**26km以上**として管路の更新工事を推進しました。（約**155km**/5年、約**31km**/年）

また、老朽管更新事業の進捗に伴い、関連する指標の『**漏水率**』が大きく改善されました。



写真 老朽管の状況

表 漏水率

年 度	H28	H29	H30	R元	R2	R3
漏水率 (%)	10.2	10.6	9.5	9.5	8.5	6.9

※漏水率 (%) = 年間漏水量 (m3) ÷ 年間配水量 (m3)



強靱 ～最適で災害に強い施設・体制の整備

目標 2. 2 老朽管更新等による施設の健全化

No.25 重要給水施設配水管整備事業（配水課）

○重要給施設配水管の整備

災害時における救急医療機関等の重要給水施設への確実な給水の確保をするため、耐震化された配水池から対象施設までの配水管の耐震化を実施しました。

※計画期間内に**3つの重要給水施設**（**松村総合病院、かしま病院（クリニックかしま）、(旧)松尾病院**）までの管路の耐震化が完了しました。（ $L \div 5.4\text{km}$ ）

※『**ときわ会常磐病院**』については令和3年度に完了する予定でしたが、令和4年度への繰越工事が発生し未完了となりましたが、**令和4年6月末時点**で完了しています。

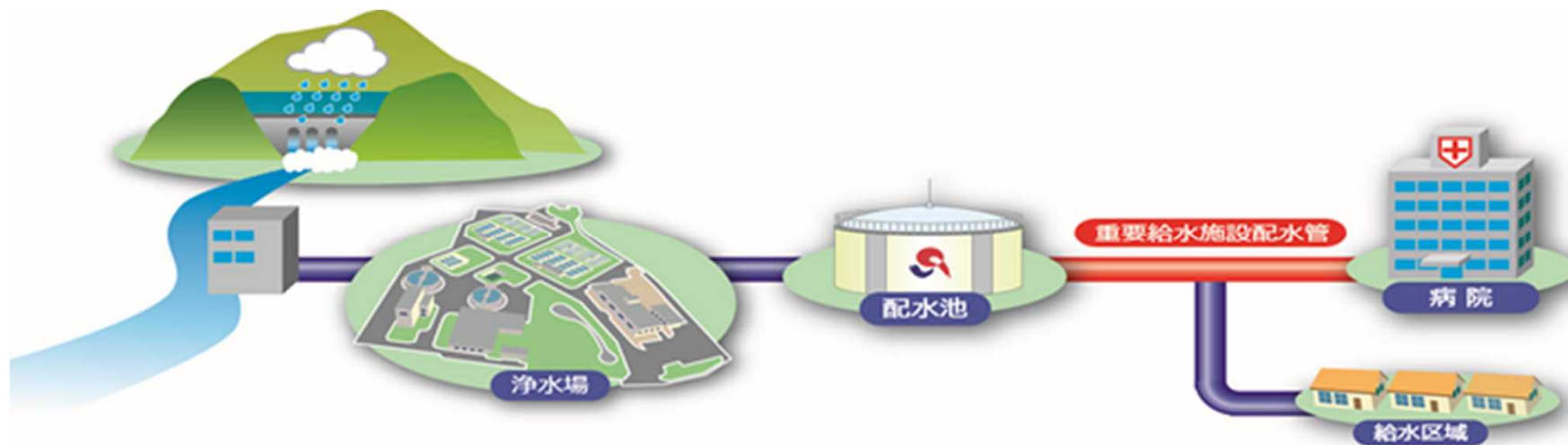


図 重要給水施設配水管整備事業



強靱 ～最適で災害に強い施設・体制の整備

目標 2. 3 危機管理意識の向上による非常時対策の強化

No.31 水道危機管理マニュアルの推進（営業課、配水課）

○危機管理関連対策マニュアルの改訂等

各危機管理関連対策マニュアルを適宜改訂しながら、最新のハザードマップをもとに津波・浸水、土砂災害の影響がある施設の予防対策や配備体制などを整理した『**風水害対応マニュアル**』を令和2年度に策定しました。

また令和3年度には応急給水活動を効果的かつ効率的に実施するため、地震災害対応マニュアルをもとに『**いわき市水道局応急給水計画**』を策定しました。

※危機管理関連マニュアル：地震災害対応マニュアル、水質事故対応マニュアル、停電対応マニュアル、テロ対応マニュアル、濁水対応マニュアル、原子力災害対応マニュアル、
（新）風水害対応マニュアル、耐震性貯水槽運用マニュアル、応急給水器具操作マニュアル



※耐震性貯水槽

写真 マニュアルに基づく応急給水訓練の様子



持続 ～持続可能な経営基盤の確立

目標3. 1 計画的な人材育成による専門性の維持とスキルアップ

No.39 人材育成の充実（総務課）

○各種研修の実施

公益社団法人日本水道協会や一般社団法人日本経営協会などが主催する様々な研修に職員を派遣し、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった研修が多くあった**令和2年度以降はオンライン研修等を活用し、感染防止に最大限配慮しながら**、可能な限り派遣し、職員の能力向上や技術力の習得に努めました。

○『いわき市水道局人材育成基本方針』の策定

長期的な視点で「人財力」及び「組織力」の向上による水道局全体の「企業力」の向上を目指し、継続的かつ計画的な人材育成の取組を推進するため、

令和2年度に『**いわき市水道局人材育成基本方針**』を、令和3年度に

『**いわき市水道局人材育成基本方針に基づく中期事業推進計画**』を策定しました。



写真 オンライン研修



写真 スキルアップ研修



持続 ～持続可能な経営基盤の確立

目標3. 2 効率的で効果的な運営による財務体質と組織強化

No.48 財政支援等の要望と新たな財源確保の推進（総務課）

○広報紙への有料広告の掲載

令和元年度から年4回発行の広報紙「すいどういわき」に**有料広告**を掲載し、財源の確保に努めました。（収入**46万円**/3年）

○水福共創メーター再資源化事業の実施

令和2年度から経年化により今後再利用しない水道メーターを再資源化対象物と廃棄物に分解、分別する業務を市内の障がい者就労施設等に委託することで障がい者の就労機会を確保するとともに再資源化対象物の**金属類の売却**による財源の確保に努めました。（収入**406万円**/2年）

○電力の小売自由化に伴う一般競争入札の実施

電力の小売自由化に伴い令和3、4年度の水道局施設で使用する電力供給（高压受電契約分）に係る**一般競争入札**を令和2年度に実施し、電気料金の削減に努めました。（削減額**1億3千万円**/2年）



写真 メーター分解の様子



持続 ～持続可能な経営基盤の確立

目標3. 2 効率的で効果的な運営による財務体質と組織強化

No.50 定数、組織、制度の検討、実施（総務課）

○適切な人員管理と効率的な組織体制の検討

人材育成、技術継承による組織強化と災害発生時における対応体制の充実等を図るため、令和2年度に**総務課**と**経営企画課**を再編する組織改正を実施しました。

※総務課の再編…『**人材育成・防災力向上担当**』の創設、広報情報係の配置

※経営企画課の再編…財政係と出納係の統合、経営企画課から『**経営戦略課**』への改称



庁舎のご案内		
階	課 等 名	主な業務内容
3	管理者室 局長室	
	総 務 課	●庁舎管理 ●情報公開 ●広報広聴 ●職員研修 ●固定資産管理 ●工事等の入札・契約 ●工事の進行管理・工事検査
	経営戦略課	●事業経営の企画・調整 ●予算管理 ●出納・決算
	第1・2会議室 入札室	
	営 業 課	●水道料金の管理 ●水道料金の収入整理 ●給水装置・指定給水装置工事事業者

写真 令和2年度の組織改正



持続 ～持続可能な経営基盤の確立

目標3. 3 環境負荷低減による社会貢献

No.56 浄水発生土の適正管理と有効利用の検討（浄水課）

○浄水発生土の再資源化の実施

福島第一原子力発電所の事故の影響により、平成30年度までは民間の再資源化施設における浄水発生土の受け入れを中断し、全量を最終処分してきましたが、受け入れの再開に伴い、令和元年度から一部を、令和2年度から全量を再資源化しました。

※再資源化量：令和元年度**677トン**、令和2年度**2,752トン**、令和3年度**2,878トン**
合計 6,307トン

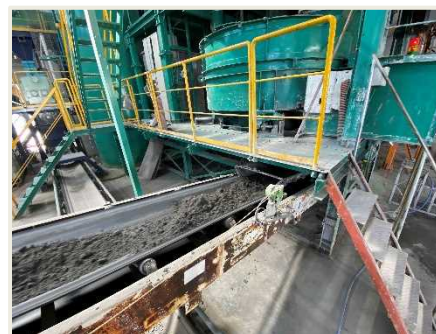
※再資源化に伴う**コスト縮減額**（令和3年度、対最終処分）：**約1,700万円**



① 搬出



② 搬入



③ 再資源化处理



④ 再資源化完了

写真 浄水発生土の処理状況



持続 ～持続可能な経営基盤の確立

目標3. 4 効果的な広報活動の実施によるお客様とのコミュニケーションの推進

No.59 経営内容のわかりやすい広報（総務課）

○広報紙等の発行

毎年度、広報紙『すいどういわき』を発行し（4回/年）、通水100周年を迎えた令和3年度には『通水100周年記念誌』を発行しました。



「すいどういわき」



「通水100周年記念誌」



持続 ～持続可能な経営基盤の確立

目標3. 5 関係者等との連携・協働の推進による水道サービスの向上

No.62 水に親しむまちづくりの推進（総務課）

○100周年記念事業の実施

通水100周年を迎えた令和3年度に『いわき芸術文化交流館アリオス』で**記念式典**を開催しました。



写真 100周年記念式典

No.65 お客さま手続きサービスの利便性向上（営業課）

○料金納入におけるスマホ決済の導入

お客さまの料金納入における利便性の向上を図るため、**スマートフォンによる料金納入**の導入について検討し、令和3年10月から運用を開始しました。

※R3 スマホ決済利用件数：**3,476件**

※R4 スマホ決済利用件数：**10,750件**（令和4年4月から10月末まで）



おわりに

本市では平成29年1月に「**新・いわき市水道事業経営プラン**」を策定し、「**安全でおいしい水の供給**」、「**最適で災害に強い施設・体制の整備**」、「**持続可能な経営基盤の確立**」の**3つの方向性**ごとに掲げた**11の目標**の実現に向け、平成29年度から最重要事業として位置付けた「老朽管更新事業」をはじめとした各種事業に取り組んだ結果、計画期間全体（平成29年度から令和3年度まで）の評価については、11の目標のうち10の目標が最高評価である「**A評価**」となりました。

また今回「**B評価**」となった「**目標3.3 環境負荷低減による社会貢献**」については、新たに策定した「**水みらいビジョン2031**」のもと、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた方策について検討し、実施していくほか、これまでの経営プランの成果を踏まえつつ、**水道事業を次世代により健全な姿で引き継いでいくため**、従前から継承した基本理念である

『**未来に引き継ぐいわきの水道 ～安全でおいしい水を必要なだけ～**』の実現に向けて各種事業に取り組んでまいります。